



THE Y'S MEN'S CLUB OF KANAZAWA-SAIGAWA

CHARTERED IN JUNE 12, 1993

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF
Y'S MEN'S CLUBS

THE SERVICE CLUB OF THE YMCA

KANAZAWA YMCA : 44-1, SATOMICHO, KANAZAWA, JAPAN 920-0998

<http://sophiruka.sakura.ne.jp/saigaways/>

国際会長主題 「私たちは変えられる」 “Yes, we can change.”
アジア太平洋地域会長主題 「アクション！」 “Action!”
西日本区理事主題 「未来に残すべきものを守り育てる」
“Let’s Protect and Cultivate What Should Be Passed on the Future”
中部部長主題 「ワイズ総活躍中部」
金沢犀川クラブ会長主題 「明日に向かって飛躍！ ワイズの輪を広げよう！」
会長：北 肇夫、副会長・会計：澤瀬 諭、書記・直前会長：平口哲夫

今月の聖句 死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。つまり、自然の命の体が蒔かれて、霊の体が復活するのです。自然の命の体があるのですから、霊の体もあるわけです。

新共同訳聖書 コリントの信徒への手紙一 15章 42～44節

2019年6月強調月間

評価・計画

1年間を振り返りましょう。出来たこと出来なかったこと良かったところ悪かったところがあります。次の年度の為に良い引継ぎをしましょう。研修会での学びを生かしましょう。

遠藤通寛 西日本区理事（大阪泉北クラブ）

☆☆☆6月第一例会☆☆☆ 日時：6月13日(木)19:00～21:00 会場：ホテル金沢 会費：3,500円 準備：平口ワイズ ***プログラム*** 司会：竹中ワイズ 開会点鐘：北会長 ワイズソング：一同 今月の聖句：司会 ゲスト紹介：司会 今月のハッピーバスデイ：北会長 竹中ネット(1日) 食前の感謝：竹中ワイズ —— 会食 —— 卓話「世界連邦運動とYMCA活動」：平口ワイズ 事業委員会報告：各委員 ニコニコタイム：澤瀬ワイズ 閉会点鐘：北会長 *使用済切手、アル缶、ウェス用布製品の提供を！ 《金沢YMCAのホームページ》 http://sophiruka.sakura.ne.jp/kanazawaymca/	☆☆☆5月例会報告☆☆☆ [第一例会] 5月16日(木)19:00～21:00、卓話「情熱のテレマン」(テレマン作品の古楽器演奏)アンサンブル30(代表 安岡厚子)演奏者：丸杉俊彦・鈴木崇洋・折口未桜・安岡厚子各氏、参加者：北・澤瀬・竹中・平口・三谷。 [第二例会] 5月23日(木)19:00～21:00、竹中チャペル、参加者：北・竹中・平口・三谷。 金沢YMCA総会 6月6日(木)17:00～。第22回西日本区大会 6月22日(土)・23日(日)、大会「ロームシアター京都」、懇親会「ウエスティン都ホテル」、参加予定：北。 今月の聖句について 15章44節における「自然の命の体」は、口語訳聖書では「肉のからだ」、NKJではa natural body、TEVではa physical bodyと訳されている。原典はギリシャ語。古代ギリシャ思想における霊肉二元論(霊魂は浄いが、肉体は穢れていると、霊と肉を対立的に捉えている)をパウロは否定。使徒信条の最後「身体(からだ)のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず」の「からだのよみがえり」とは、霊肉一元論に根ざすが、生物学的な意味での復活ではない。キリスト、既にと未だ、その間(かん)も新たにされて代々語りつぐ。
---	--

当クラブ	5月出席者	5月出席率(正会員)	B F ポイント	ニコニコタイム
正会員 4名 広義会員 0名 功労会員 1名	正会員 4名 功労会員 1名 メネット 3名 ビジター 0名 ゲスト 6名	4÷4×100 メーキャップ 0名	前月繰越切手 3,758g 5月分切手 4g 今年度累計 切手 3,762g 現金 0円	前月累計 116,710円 5月 11,000円
合計 5名	14名	100%		今期累計 127,710円

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”

◆ 5月第一例会報告 ◆ ～古楽器演奏の夕べ～

澤瀬 諭

令和元年になって初めての第一例会が5月16日(木)19:00～21:00、ホテル金沢で開催された。今期6月末で解散される当クラブにとっては、ゲストスピーカーをお招きして開催する例会としては最後のもの。これにふさわしく、富山を中心に活動しているアンサンブル 30 に属する4人の奏者を、平ロワイズのお力添えでお招きし、古楽器によるバロック音楽演奏「情熱のテレマン」を拝聴した。おかげさまで格調の高い例会を持てたことに感謝。

* George Philipp Telemann (1681-1767)は18世紀前半のドイツバロック音楽を代表する音楽家。マグデブルグ出身。40歳以降、ハンブルグで活躍。リコーダの名手、チェンバロやリュートも演奏。



演奏者：左から折口未桜(ヴィオラ・ダ・ガンバ)、安岡厚子(チェンバロ)、丸杉俊彦(リコーダ・フラウトラヴェルソ)、鈴木崇洋(バロックヴァイオリン)各氏



◆ とやまクラブチャーターナイト参加記 ◆

北 肇夫

5月11日(土)、とやまクラブチャーターナイト(加盟認証状伝達式)は、とやま自遊館(富山市湊入船町)で開催され、当クラブから三谷ワイスと筆者が日帰りで参加した。

式典に先だって、富山YMCAの4施設(堤町本館、駅前センター、ふなはし保育園、荻浦保育園)を見学するエクスカーションにも参加。各施設は、地域の活性化にかなった事業展開があり、活気にあふれていた。

伝達式は、全国各地から120名が参加し、お祝いムードに包まれていた。来賓者も多彩で、アジア太平洋地域会長、西日本区大会理事、同次期理事、同直前理事をはじめ西日本区を挙げての式典となった。チャーターメンバー19名、スポンサークラブは金沢クラブ。

お祝いムードに溢れた懇親会では、知人も多く、親

しく交流を重ねることができた。

中部での新クラブ誕生は、金沢浅の川クラブ以来、22年振りで、大変おめでたい出来事であった。



懇親会にて(数澤輝夫ワイス提供)

◆ 2018-019 第4回中部評議会参加記 ◆

北 肇夫

5月25日(土)、第4回中部評議会が名古屋YMCA会館で開催され、当クラブから筆者が日帰りで出席。マイカーで北陸道・名神高速道・名古屋都市高速道路を金沢クラブの2名と共に快適なドライブを楽しんだ。

主な議題である次々期中部部長には、名古屋グランパスクラブの早川政人ワイスが承認された。その席上、各クラブ会長から活動報告があり、当クラブからは、「2019年6月末をもってクラブ解散するとの表明」を行った。多くの方から慰留の言葉をいただいたが、この2年間、会員確保のため例会の充実と多くのゲストを招いて、その成果は上がったものの、メンバー増強には繋がらなかったことをご理解いただけるよう努めた。

◆ 金沢YMCA わいわい農園体験記 ◆

Yサ・ユース事業委員長 北 肇夫

「金沢YMCA わいわい農園体験」は、開設6年目を迎え、今シーズンも4月からスタートした。

2016年度には獣害対策として北陸学院が全農園区画に「簡易フェンスの敷設」を行い、さらに2017年度にはフェンスに沿って「電気柵の設置」に踏み込んだ。その結果、年々増加してきたイノシシやアライグマなどの被害を食い止めることができた。

今シーズンも作付は根菜類が主体で、越前大野のサトイモ、金沢市夕日寺町の伝燈寺サトイモやダイコン、草花ではジニア(百日草)やハーブ(香草)としてバジルが挙げられ、秋季には加賀野菜の源助ダイコン、二塚カレンナなどを播種する予定である。



2019年5月14日、室山正英氏撮影

今期、参加登録者数の減少による減収が懸念されているが、オーナー制の活用や北陸学院大学の福江ゼミとの提携で活性化を図りたい。今後、農園体験を皆さんに楽しんでいただけるよう、収穫祭などを企画し、交流の場に発展してゆけばと願っている。

◆ 春のクリーンキャンペーン参加記 ◆

地域奉仕・環境事業委員長 北 肇夫
“金沢百万石まつり”間近の 5 月 26 日(日)早朝、金沢市青少年団体連絡協議会(青団連)主唱の“クリーンキャンペーン”が、全市一斉に行なわれた。

ステージⅠでは、参加者 3 名(金沢 YMCA1 名、金沢クラブ 1 名、金沢犀川クラブ 1 名)が、金沢 YMCA 事務所から堅町商店街・柿木畠商店街を 1 巡。相変わらずゴミの大半がタバコの吸い殻であった。

ステージⅡでは、参加者 8 名(地元町内会「石交会」5 名、金沢犀川クラブの竹中ワイズ・北メネットと筆者 3 名)が新桜坂緑地(W 坂)の上・下の園地と階段部を中心に実施。ゴミはサクラの花殻や枯葉が 45L 入り 6 袋もあった。この作業には、竹中ワイズ持参のプロアー(エンジン付き掃除機)が威力を発揮した。天候に恵まれ 1 時間余りの清掃作業で見違えるようになった。また、今回の参加者で、園地に隣接地にアトリエをもつ大滝有希生画伯から作品の解説などを受けた。



この地道なボランティア活動は、本年 7 月以降、金沢 YMCA の活動として継続したい。

◆ 6月第一例会卓話 ◆ ～世界連邦運動とYMCA活動～

平口 哲夫

世界連邦運動協会(以下、世連と略称)に入会した経緯については『世連石川』第 29 号の「世連に入会して」で述べ、また、戦争・平和の問題に取り組むに至る原点とも言える生い立ちについては世連石川県連合会 2015 年度理事会・総会で講話したことがある。一方、金沢犀川クラブのブリテン 2010 年 2・3・5・6 月号と 2011 年 1 月号に「世連とクリスチャン」、2012 年 5・6 月号に「世連とワイズメンズクラブ」と題して投稿。また、中部部長として公式訪問した名古屋東海クラブ 2013 年 1 月第一例会では、「世連と YMCA・ワイズメンズクラブ」と題して卓話。同様の卓話は、2015 年 10 月 16 日開催の東京世田谷クラブ 10 月第一例会でも「世連とクリスチャニティー」と題して行なった。これらは、別に配布する資料に収録してあるので、参考にさせていただきたい。

私は 1961 年 4 月に泉丘高校の聖書研究会(ハイスクール YMCA)に入会、1965 年 6 月に東北大学の学生 YMCA に入会、1983 年に金沢 YMCA に入会、そして世連(WFM of Japan)に入会したのが 2003 年 3 月であるから、YMCA 歴のほうが WFM 歴よりもずっと長い。しかし、YMCA 活動を平和運動という観点から強く意識するようになったのは、WFM(World Federalist Movement)に携わってからのことである。

日本 YMCA 同盟基本原則は三つの使命を謳っている。第一に「すべてのいのちをかけがえのないものとして守り育てる」、第二に「一人ひとりの人権を守り、正義と公正を求める」、第三に「世界の人びとと共に平和の実現に努める」。この三つの使命は、平和学で定義された「積極的平和」に通じる。「積極的平和」とは、安倍首相の主張する「積極的平和主義」とは似て非なるものであり、「戦争がない状態」(消極的平和)だけでなく、経済・政治的安定、基本的人権の尊重、政治的自由と政治プロセスへの参加、快適で安全な環境、豊かな生活が確保されている状態を意味する。

WFM は、第二次世界大戦末期に広島と長崎に原爆が投下されたことを切っ掛けに、原子物理学者のアインシュタイン博士を筆頭とする科学者・文化人の提案により、1946 年 10 月にルクセンブルクに集まって国際的な運動組織が結成されたのが始まりである。翌 1947 年、モントルー宣言が採択され、国連では果たせない機能を持たせた世界連邦政府の実現をめざしている。1948 年には、日本でも世界連邦運動が立ち上がり、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士、「憲政の父」と称された尾崎行雄氏、「協同組合の父」と称されたクリスチャンの賀川豊彦氏らが参画し、尾崎が会長、賀川が副会長に就任した。

現在、私は、世連本部の執行理事、理論・政策委員長、NEWSLETTER 編集副委員長、石川県連合会理事長などを兼務している。

◆ クラブ解散にあたって ◆ 「つらいクラブ解散表明」

会長、地域奉仕・環境委員長、メネット連絡員 北 肇夫

この 2 年間、例会を充実させ、魅力ある卓話を用意し、多くのゲストを招いた結果、例会充足率は上がったものの、メンバー増強には繋がらなかった。

クラブ解散の公式表明は、5 月 25 日に開催の「2018-2019 年度第 4 回中部評議会」の席上、解散時期を 2019 年 6 月末とした。

中部では「とやまクラブ」誕生という、金沢浅の川クラブ以来、22 年振りの大変おめでたい出来事があったばかりなので、至極つらい「クラブ解散表明」となった。



「12 年間の思い出」

会計、副会長、Y サ-ユース・ファンド委員長 澤瀬 諭

金沢犀川クラブに再入会したのは 2008 年 2 月(以前、数年間在籍していたのだが、仕事の関係で一度退会している)。以来、今日まで 12 年間活動を続けてこれたのもワイズ活動の意義と多くのワイズメンとの出会いがあったからだ。

この間、クラブ会長を 3 年間務めさせていただいた。特に印象に残っているのは、



会長在任中の 2013 年、平口中部部長のもと、第 17 回中部部会兼クラブ創立 20 周年記念を当クラブがホストとなり金沢で開催したことであった。「それぞれの長所生かしていきてい！」の部長主題のもと、たった 6 名のメンバーで大きな事業を行うために一致団結、この大会を成功裏に終えたことは、誇りに思っている。



第 17 回中部部会懇親会終了後、金沢犀川クラブと金沢クラブのワイズメン・メネットが集合して撮った写真

また、近隣の各部会の参加や各地で開催される西日本区大会に 9 回参加し、ワイズメンならではの貴重な体験をさせていただいたことにも感謝。昨年はクラブ創立 25 周年記念事業も開催することができた。

残念ながら当クラブは四半世紀で歴史に幕を下ろすことになるが、全国のワイズメンズクラブの益々の隆盛を心から祈っております。

「クラブでの貴重な経験」

交流委員長 竹中 丈晴

私が平口ワイズのお誘いで犀川ワイズメンズクラブに入会したのは 2012 年で、わずか 7 年間の在籍でしたが、この間いろいろな人と出会え、もともとあまり人付き合いのない私には有意義な刺激となり、感謝にたえません。また、平口ワイズを通して、長年安否が分からなかった知人の消息を知ることができたこと、私が若草教会時代に洗礼を授けてくださった、敬愛する森野善右衛門先生に竹中チャペルで開催の第一例会に講師としてお出でいただいたことも忘れることのできない貴重な経験でした。月二回の例会参加は、まだ現役で仕事をしている私にはかなりの時間的負担でしたが、それを余りある素晴らしい経験でした。このクラブがいつか再興されることを願ってやみません。



2012 年 8 月 11 日第一例会で講演中の森野先生

「15 年間のクラブ体験に感謝」

書記、直前会長、広報委員長、メール委員 平口 哲夫
私が金沢犀川クラブに入会したのは 2004 年 12 月。ワイズメンズクラブは経済的に余裕ある人たちの集まりであって、研究費にこと欠き自腹でしのぐ身では、とても付き合えないと思っていたが、同年 4 月に脳梗塞を患い、20 日間ほど入院して人生観が変わったときに、三谷ワイズから誘われたのが入会のきっかけ。



クラブ活動はとても素晴らしく、特に中部部会や西日本区大会を介しての交流は、専門分野では得難い魅力があった。2007 年度から 2 年間会長を務め、フリテン・HP 編集を担当するうちに、2011 年 3 月、定年退職。2013 年度には中部部長になったので、クラブ創立 20 周年を機に退会とは言い出せなかった。しかし、クラブ活動の継続が個人的事情で困難になってきたので、2019 年 6 月末をもって退会する旨、2 年前に宣言。会員数が功労会員を含めて 5 名、しかも全員 70 歳以上では、誰か一人でも退会すれば解散せざるを得ないという認識を全員が持っていたので、今後どうするか、時間をかけて相談する必要があったからだ。

この 15 年間、脳梗塞を再発することなく、鼠径ヘルニアの手術で 10 日間入院した程度で、概ね元気でクラブ活動ができた幸いを感謝いたします。

「57 年間のワイズ歴を顧みて」

功労会員 三谷 信三

私は、1962 年 2 月金沢クラブ入会、1968 年 7 月尼崎クラブのチャーターメンバー、1969 年 9 月岡山クラブに転会、その後、金沢クラブに復帰など、転勤族らしいワイズ歴に加え、1993 年 6 月には金沢犀川クラブのチャーターメンバー。現在の正会員 4 名のうち、チャーターメンバーは北ワイズのみ、澤瀬ワイズの入会・再入会や平口ワイズの入会が私がお誘いした結果であり、その平口ワイズのお誘いで入会したのが竹中ワイズです。昨年 8 月に開催した当クラブ創立 25 周年特別例会も、この 4 名の方々の尽力なしには実現しなかったでしょうが、入会勧誘という点で、私も少なからず貢献したと自負しております。



◆ “ポスト金沢犀川ワイズメンズクラブ”委員会 ◆

平口 哲夫

現会員 5 名のうち 4 名は、当クラブ解散後も金沢 YMCA 会員を継続する予定なので、当クラブ独自に行ってきた「新桜坂緑地清掃」、「使用済み切手・アルミ缶・ウェス用布製品収集」、「例会」などを金沢 YMCA 事業用に改めて実施し、フリテン発行・HP 作成に要した時間と労力を金沢 YMCA のニュースレター・HP 作成に振り向けることが望ましく、また創立 25 周年記念誌 CD が未完成という宿題も残されているので、「“ポスト金沢犀川クラブ”委員会」を設立して残務整理に当る。